



令和2年1月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

令和元年12月13日

上場会社名 株式会社バリューゴルフ 上場取引所 東
 コード番号 3931 URL https://corp.valuegolf.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 水口 通夫
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部部長 (氏名) 渡辺 和昭 TEL 03-6435-1535
 四半期報告書提出予定日 令和元年12月13日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 令和2年1月期第3四半期の連結業績（平成31年2月1日～令和元年10月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2年1月期第3四半期	4,190	42.8	13	△71.8	5	△85.5	△15	-
31年1月期第3四半期	2,933	26.6	47	△59.7	37	△65.4	24	△72.9

(注) 包括利益 2年1月期第3四半期 △15百万円 (-%) 31年1月期第3四半期 24百万円 (△73.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2年1月期第3四半期	△8.76	-
31年1月期第3四半期	13.82	13.73

(注) 令和2年1月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2年1月期第3四半期	2,433	970	39.8	539.83
31年1月期	2,351	986	41.8	548.78

(参考) 自己資本 2年1月期第3四半期 967百万円 31年1月期 983百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
31年1月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2年1月期	-	0.00	-		
2年1月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 令和2年1月期の連結業績予想（平成31年2月1日～令和2年1月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,782	26.1	64	△52.7	52	△57.6	21	△79.0	11.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2年1月期3Q	1,792,600株	31年1月期	1,792,600株
② 期末自己株式数	2年1月期3Q	165株	31年1月期	85株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2年1月期3Q	1,792,467株	31年1月期3Q	1,791,955株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成31年2月1日～令和元年10月31日)におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善により緩やかな回復基調が続いております。米中通商問題の動向が世界経済に与える影響や海外経済の動向と政策に関する不確実性等、依然として先行きは不透明な状況となっております。

ゴルフ事業を取り巻く環境におきましては、黄金世代と呼ばれる若手女子プロゴルファーの活躍や有名男子プロゴルファーによる3年ぶりの復活優勝等、ゴルフ業界にとって明るいニュースが続いたこともあり、今年度のゴルフ場の売上高や利用者数は比較的堅調に推移しておりましたが、9月以降は天候の不順により大きな影響を受ける結果となりました。特に相次いで関東地方に上陸した台風15号・19号による被害は甚大なものとなっており、復旧までには数カ月を要するゴルフ場や復旧を断念し廃業を決断するゴルフ場も出てきており、予断を許さない状況が続いております。

トラベル事業を取り巻く環境におきましては、平成31年1月から令和元年10月における日本人出国者数が前年同期比6.9%増の1,672万人となり、10か月連続のプラス成長と堅調に推移しております。また、訪日外客数においても平成31年1月から令和元年10月の総数は前年同期比3.1%増の2,691万人となっております(出典:日本政府観光局(JNTO))。中国市場及び東南アジア市場において引き続き訪日外客数が堅調に伸びていることやラグビーワールドカップ2019日本大会の開催により、出場国が含まれる欧米豪市場の訪日外客数が伸びたことが前年同期比を上回った一因となりました。しかしながら、訪日外客が多い韓国市場の減速が続いており、訪日旅行市場を取り巻く環境は世界情勢の影響などから日々変化しています。

このような経営環境の下、当社グループは継続的な企業価値の向上を実現すべく、売上高の拡大及び収益力の強化を目指し、各事業において新規案件の獲得、サービス品質の向上に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高4,190,305千円(前年同期比42.8%増)、営業利益13,270千円(前年同期比71.8%減)、経常利益5,417千円(前年同期比85.5%減)、親会社株主に帰属する四半期純損失15,698千円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益24,770千円)となっております。

セグメントの経営成績は次のとおりであります。

(ゴルフ事業)

ゴルフ事業においては、台風等の天災による被害を受けたゴルフ場の休業や悪天候によるキャンセルの増加により、「1人予約ランド」を中心とするASPサービスは大きな影響を受ける結果となりました。しかし、その中でも令和元年10月末日時点で利用可能コースは1,079コース、登録会員数は60万人を突破する等、サービス規模の拡大は維持しております。

広告・プロモーションサービスにおいては、「バリューゴルフレッスン」で開催コースや講師数の増加を目指し活動を推進し、開催コースは32コース、講師数は58名と業界最大規模のサービスへと成長いたしました。ASPサービス同様、悪天候の影響を受けながらも前年同期比111.4%の推移となっており、当社グループの業績安定化に寄与しております。

ゴルフ用品販売を中心とするECサービスでは、9月以降の悪天候や消費税増税前の駆け込み需要の反動等により、実店舗への客足が減少する等の影響を受けました。また、キャッシュレス還元を始めとする消費税増税への対応の一環で設備投資を行ったため、一時的な費用が発生する結果となりました。一方、インターネット通販の売上高は前年同期比118.8%と堅調に伸びておりますが、配送料の高騰や各種モールの手数料及び販売促進策等により販売コストが増加しており、利益面を圧迫するという課題を引き続き抱えております。

バリューゴルフ大崎においては、20代30代の若い世代に向けて入会金・年会費無料のキャンペーンを展開するなど新規会員獲得に力を入れてまいりました。また、大崎近郊の会社や大学、老人介護施設へ法人営業を展開し、福利厚生の一環や健康増進のための運動施設として、幅広く利用できるように活動を進めてまいりました。

以上の結果、売上高2,371,207千円(前年同期比10.0%増)、営業利益313,140千円(前年同期比4.2%増)となりました。

(トラベル事業)

トラベル事業においては、在日外国人向けの自社企画バスツアーが堅実に推移しており、催行したツアーは50本以上、延べ参加人数は2,000人以上と成長を続けております。また、「1人予約旅」「VGキャンプ」「海外VG CUP」も順調に参加者を獲得しており、9月には新たに「第1回産経旅行CUP」を企画、催行いたしました。従来のサービスラインナップに加え、今年度は法人営業における案件獲得を強化しており、前年度も催行した900名規模の大型社員旅行を今年度も正式に受注いたしました。引き続き、教育機関の研修旅行や企業の社員旅行の受注を目指した営業活動を展開してまいります。

一方で、利益率の低い商品や収益力の弱い拠点の見直し、ITを活用したオペレーションの効率化等、構造改革を継続し、収益基盤を強固なものにする体制づくりを推進いたしました。このようなりストラクチャリングに係る一時的な費用が発生し、のれんの償却額18,327千円と併せて利益の確保に苦戦する要因となっておりますが、改革を継続し、収益力の改善に努めてまいります。

以上の結果、売上高1,762,768千円(前年同期比147.5%増)、営業損失57,950千円(前年同期は営業損失6,922千円)となりました。

(その他)

メディカル事業においては、出版サービス及びES/PSサービスの営業活動を進めると共に、5月に発売を開始したアンチエイジングとロコモティブ症候群(運動器機能不全)に着目したサプリメント『スタブルUC-II』の2ヶ月無料モニターの告知など販売プロモーション等を行いました。

広告メディア制作事業においては、新規案件獲得のための継続的な活動や、グループ内制作業務の一元化といった収益力強化に向けた施策が奏功しております。引き続き各施策を推進し、通期での増益を目指しております。

以上の結果、売上高59,064千円(前年同期比15.9%減)、営業利益3,626千円(前年同期は営業損失6,847千円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末と比較して81,911千円増加し、2,433,497千円となりました。これは主に、現金及び預金の増加54,295千円、商品の増加142,373千円及び旅行前払金の増加86,955千円、売掛金の減少130,628千円によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比較して98,000千円増加し、1,463,495千円となりました。これは主に、買掛金の増加45,301千円、短期借入金の増加160,000千円、長期借入金の減少79,545千円によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末と比較して16,088千円減少し、970,002千円となりました。これは主に、利益剰余金の減少15,698千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向を踏まえ、令和2年1月期の通期の連結業績予想を精査した結果、平成31年3月14日発表の「平成31年1月期 決算短信」の業績予想を変更しております。詳細については、本日(令和元年12月13日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成31年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和元年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	714,847	769,142
売掛金	395,738	265,110
商品	601,580	743,953
旅行前払金	151,172	238,127
その他	36,740	21,607
貸倒引当金	△17	△14
流動資産合計	1,900,060	2,037,926
固定資産		
有形固定資産	79,823	73,838
無形固定資産		
のれん	184,696	144,183
その他	27,217	20,866
無形固定資産合計	211,913	165,050
投資その他の資産		
その他	168,710	163,895
貸倒引当金	△8,922	△7,213
投資その他の資産合計	159,788	156,682
固定資産合計	451,524	395,571
資産合計	2,351,585	2,433,497
負債の部		
流動負債		
買掛金	131,552	176,854
短期借入金	440,000	600,000
1年内償還予定の社債	10,000	-
1年内返済予定の長期借入金	102,640	87,860
旅行前受金	240,584	247,246
引当金	13,890	11,116
その他	124,471	102,114
流動負債合計	1,063,138	1,225,192
固定負債		
長期借入金	271,816	207,051
資産除去債務	30,539	30,677
その他	-	574
固定負債合計	302,355	238,303
負債合計	1,365,494	1,463,495
純資産の部		
株主資本		
資本金	378,728	378,728
資本剰余金	371,219	371,219
利益剰余金	233,429	217,731
自己株式	△185	△311
株主資本合計	983,192	967,369
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	498	233
その他の包括利益累計額合計	498	233
新株予約権	2,400	2,400
純資産合計	986,091	970,002
負債純資産合計	2,351,585	2,433,497

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成31年2月1日 至令和元年10月31日)
売上高	2,933,434	4,190,305
売上原価	2,172,820	3,209,272
売上総利益	760,614	981,032
販売費及び一般管理費	713,577	967,762
営業利益	47,036	13,270
営業外収益		
受取利息及び配当金	229	108
貸貸収入	461	461
為替差益	904	-
その他	453	703
営業外収益合計	2,049	1,273
営業外費用		
支払利息	6,098	6,012
支払手数料	2,278	1,617
株式交付費償却	1,398	-
為替差損	-	924
その他	1,885	571
営業外費用合計	11,661	9,126
経常利益	37,425	5,417
税金等調整前四半期純利益	37,425	5,417
法人税、住民税及び事業税	12,625	17,201
法人税等調整額	29	3,913
法人税等合計	12,654	21,115
四半期純利益又は四半期純損失(△)	24,770	△15,698
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	24,770	△15,698

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成30年2月1日 至 平成30年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成31年2月1日 至 令和元年10月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	24,770	△15,698
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△102	△265
その他の包括利益合計	△102	△265
四半期包括利益	24,667	△15,963
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	24,667	△15,963

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成30年2月1日至平成30年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損 益計算書計上 額(注)3
	ゴルフ事業	トラベル事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	2,154,185	709,014	2,863,199	70,235	2,933,434	-	2,933,434
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	890	3,338	4,228	-	4,228	△4,228	-
計	2,155,075	712,352	2,867,428	70,235	2,937,663	△4,228	2,933,434
セグメント利益 又は損失(△)	300,380	△6,922	293,458	△6,847	286,610	△239,573	47,036

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告メディア制作事業、メディカル事業を含めております。

2. セグメント利益又は損失の調整額△239,573千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結会計期間において、株式会社産経旅行の株式を取得し連結子会社としたことにより、「トラベル事業」においてのれんが105,358千円増加しております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成31年2月1日至令和元年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損 益計算書計上 額(注)3
	ゴルフ事業	トラベル事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	2,370,008	1,761,827	4,131,835	58,469	4,190,305	-	4,190,305
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	1,199	940	2,139	595	2,734	△2,734	-
計	2,371,207	1,762,768	4,133,975	59,064	4,193,040	△2,734	4,190,305
セグメント利益 又は損失(△)	313,140	△57,950	255,190	3,626	258,816	△245,546	13,270

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告メディア制作事業、メディカル事業を含めております。

2. セグメント利益又は損失の調整額△245,546千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。